



2026 年シーズン NPO 法人リトルリーグ北関東連盟 大会規則(暫定版)

I	2026 年シーズン NPO 法人リトルリーグ北関東連盟大会内規及び運営要項	1 ~ 22
	大会要項<1~22>	
II	大会規則	23~73
	大会規則・別表 1 レギュラーシーズン主な規則と留意点	23
	大会規則・別表 2 メジャー・マイナー大会規則	24~29
	大会規則・別表 3 インターミディエイト大会規則	31~36
	大会規則・別表 4 インターミディエイト全日本リトルリーグ野球選手権大会規則	37~43
	大会規則・別表 5 M L B カップ大会規則	44~49
	大会規則・別表 6 ジュニアリーグ大会規則	50~56
	大会規則・別表 7 全日本リトルリーグ野球選手権大会規則	57~63
	大会規則・別表 8 全国選抜リトルリーグ野球大会規則	64~69
	大会規則・別表 9 東日本選手権大会規則	70~76
	大会規則・別表 10 ティーボール関東四連盟大会規則	77~79
	大会規則・補足 大会規則の補足	80~81
	添付資料 1 2026 年リトル年齢早見表	82
	添付資料 2 変更届用紙	83
	添付資料 3 2026 年シーズン 登録書の作成要領	84
	携行書類ガイド 全日本必要資料	85

世間の情勢やアメリカ本部のルール変更により急遽、変更する場合がございますが、ご了承ください。
変更を行う場合には別途、ご連絡させていただきます。

2026年シーズン

冬季大会



Little League

I インターミディエット部門

『サイキョウ・ファーマ旗争奪』 リトルリーグ北関東連盟大会

II ティーボール部門

リトルリーグ北関東連盟大会

III メジャー部門

『理事長杯』 リトルリーグ北関東連盟大会

IV マイナー部門

リトルリーグ北関東連盟大会

主催者：NPO 法人リトルリーグ北関東連盟

スポーツくじ



この大会はスポーツ振興くじ助成金を受けて実施します

2026年シーズン NPO 法人リトルリーグ北関東連盟

冬季大会内規及び運営要項

<大会要項 1>

I 冬季大会インターミディエイト部門『サイキョウ・ファーマ旗争奪』

リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：1月17日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内もしくは栃木県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：1月24日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：1月25日（日） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：2月11日（祝水）／15日（日）／予備日22日（日） *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（登録人数：出場選手人数／背番号）：下表による。（10名から20名／1番からの連番）
- 8) 試合出場選手：14名全員出場（試合毎にベンチ入り20名より選出しメンバー表記載14名選手のみ）
※メンバー表に記載ない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコート等を着用すること。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位4チーム）
- 13) 集合時間（各リーグ役員・審判部・競技部・広報部）：7時30分
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時 *第2試合以降、第1試合終了時点リーグ競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：8時30分 第2試合以降、第1試合終了時点リーグ競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（2時間で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（7回終了時点または時間制限後、同点の場合、次の回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：4回_15点／5回_10点／6回_7点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 投手規則：リトル年齢13歳_95球／12・11歳_85球
- 21) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 22) 適用大会規則：2026年シーズン N P O 法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表3
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：	H25	⇒誕生年(和暦)
	2013年	⇒誕生年(西暦)
	13	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11							
小学6年	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11
中学1年	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12
中学2年						H24 2012年 13	H24 2012年 13	H24 2012年 13	H24 2012年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13

Ⅱ 冬季大会ティーンボール部門 リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：1月31日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出：不要
- 5) 抽選会：2月14日（土）
- 6) 試合日程：2月22日（日）／予備日23日（祝月）＊天候により変更あり。
- 7) 参加資格：3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 8) 連合：連合を認める
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 13) 集合時間（役員・審判部・競技部・広報部）／チーム受付時間：7時／7時30分
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時45分 ＊第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（35分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無
（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、次の回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：なし
- 19) 打順：打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが途中からの変更は出来ない。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表10、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

Ⅲ 冬季大会メジャー部門『理事長杯』 リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：1 月 31 日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：2 月 7 日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：2 月 14 日（土）*登録書 1 部および選手名簿頁 3 部コピー持参要
- 6) 試合日程：2 月 23 日(祝月)／3 月 1 日（日）／予備日 8 日(日) *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（9 名から 20 名／1 番からの連番とする）
- 8) 連合：不可
- 9) 大会参加費：1 チーム 5,000 円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3 チーム総当たり・2 チーム 2 試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位 4 チーム）
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8 時
- 14) 第 1 試合ベンチ入り時間：8 時 30 分 *第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 15) 第 1 試合開始時間：9 時 第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：1 時間 45 分
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6 回終了時点、同点の場合、7 回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：3 回_15 点／4 回_10 点／5 回_7 点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 投手規則：リトル年齢 12・11 歳_85 球／10 歳_75 球
- 22) 適用大会規則：2026 年シーズン N P O 法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表 2、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生年(和暦)
	2014年	⇒誕生年(西暦)
	12	⇒リトル年齢

学年	誕生月 (4/2~4/30)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学4年		H28	H28	H28	H28	H28							
		2016年	2016年	2016年	2016年	2016年							
		10	10	10	10	10							
小学5年		H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
		2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
		11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年		H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
		2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
		12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年							H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
							2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
							12	12	12	12	12	12	12

Ⅳ 冬季大会マイナー部門 リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：2月14日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：2月21日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：2月28日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：3月8日(日)／15(日)／予備日20(祝金) *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（9名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 連合：理事長承認により認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位4チーム）
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8時
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時30分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（1時間20分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦(トーナメントの場合)：無（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：3回_15点／4回_10点／5回_7点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 投手規則：リトル年齢11歳_85球／10・9歳_75球／8歳_50球
- 21) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 22) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表2、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

H27	⇒誕生日(和暦)
2015年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学3年	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H30	H30	H30
	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2018年	2018年	2018年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H29	H29	H29
	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2017年	2017年	2017年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

※3年生の参加を認める。（選手の技量を鑑みて判断すること）

2026年シーズン

春季大会



**Little
League**

V ティーボール部門

リトルリーグ北関東連盟大会

VI インターミディエット部門

J A 共済杯 第14回インターミディエット

全日本リトルリーグ野球選手権大会 リトルリーグ北関東連盟大会

VII マイナー部門 『AIG プレゼンツ MLB CUP2026』

リトルリーグ北関東連盟大会

VIII ジュニア部門 アジア太平洋中東選手権大会 日本地区予選

リトルリーグ北関東連盟大会

主催者：NPO 法人リトルリーグ北関東連盟

スポーツくじ



この大会はスポーツ振興くじ助成金を受けて実施します

<大会要項 5>

V 春季大会ティール部門 リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：3月21日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出：不要
- 5) 抽選会：3月28日（土）
- 6) 試合日程：4月5日（日）／予備日4月19日（日） *天候により変更あり。
- 7) 参加資格：3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 8) 連合：連合を認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)／チーム受付時間：7時／7時30分
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時45分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（35分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：なし
- 19) 打順：打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが途中からの変更は出来ない。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表10、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

Ⅵ 春季大会インターミディエット部門 J A 共済杯 第 14 回インターミディエット 全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会

※ 登録は 2026 年 1 月 31 日までの入団生に限る

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：3 月 21 日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内もしくは栃木県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 携行書類：下記グループ①～③からそれぞれ 1 つ以上の書類が必要。

発行日付は 2025 年 2 月 1 日から 2026 年 1 月 31 日まで、もしくはその期間に有効なもの。

グループ①：運転免許証、自動車関連書類（車検証・自動車保険証書）、健康保健証、
マイナンバーカード（番号は黒塗り）のいずれか 1 つ以上

グループ②：住民票（保護者と対象選手の記載があるもの）、戸籍抄本のいずれか 1 つ以上

グループ③：公共料金等の領収書、金融関係記録（クレジットカード利用明細書等）、
医療費額通知書等、ワクチン接種証明、インターネット・ケーブルテレビ・衛星放送関連等

注）各書類には日付・住所・保護者名が明確に記載されていること

住民票の保護者名は他の証明書類と保護者名は一致のこと

※ その他詳細は携行書類ガイド参照

- 5) 登録書提出期限：3 月 28 日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 6) 抽選会：4 月 4 日（土） *登録書 1 部および選手名簿頁 3 部コピー、選手提出一式持参要
- 7) 試合日程：4 月 12 日(日)／19 日(日)／26 日(日)／予備日 29 日(祝水)
*天候により変更あり。
- 8) 参加資格：次頁表による。（12 名から 14 名／1 番からの連番とする）
但し、登録は 1 月 31 日までの入団生に限る
- 9) 連合：地区責任者が承認した連合リーグの出場を認める。（構成は近接 3 リーグ以内）
- 10) 大会参加費：1 チーム 5,000 円
- 11) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3 チーム総当たり・2 チーム 2 試合）で行う。
- 12) シード：無
- 13) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 14) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：7 時 30 分
- 15) 第 1 試合ベンチ入り時間：8 時 *第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 16) 第 1 試合開始時間：8 時 30 分 第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 17) 試合時間制限：無
- 18) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（同点の場合、8 回よりタイブレーク方式）
- 19) コールド規定：4 回_15 点／5 回以降_10 点
- 20) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 21) 投手規則：リトル年齢 13 歳_95 球／12・11 歳_85 球
- 22) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 23) 適用大会規則：2026 年シーズン N P O 法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表 4、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

注：リトルリーグ年齢表は次頁

インターミディエット部門 J A 共済杯 第 14 回インターミディエット
全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会 リトルリーグ年齢表

2026年リトルリーグ年齢表

⇒誕生年(和暦)
⇒誕生年(西暦)
⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27							
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12
中学2年						H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
						2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
						13	13	13	13	13	13	13

Ⅶ 春季大会マイナー部門 『AIG プレゼンツ MLB CUP2026』

リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：4月4日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：4月11日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：4月18日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：4月29日(祝水)／5月3日(日)／予備日6(祝水) *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（9名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 連合：理事長承認により認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：有（冬季大会マイナー部門 北関東連盟大会：優勝／準優勝）
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位4チーム）
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8時
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時30分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：無
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6回終了時点、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：3回_15点／4回_10点／5回_7点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 投手規則：リトル年齢11歳_85球／10・9歳_75球／8歳_50球
- 21) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 22) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表5、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：

H27	⇒誕生日(和暦)
2015年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学3年	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H30	H30	H30
	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2018年	2018年	2018年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H29	H29	H29
	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2017年	2017年	2017年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

※3年生の参加を認める。（選手の技量を鑑みて判断すること）

Ⅷ 春季大会ジュニア部門 アジア太平洋中東選手権大会 日本地区予選 リトルリーグ北関東連盟大会

※ 登録は 2026 年 1 月 31 日までの入団生に限る

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：4 月 18 日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内もしくは栃木県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 携行書類：下記グループ①～③からそれぞれ 1 つ以上の書類が必要。

発行日付は 2025 年 2 月 1 日から 2026 年 1 月 31 日まで、もしくはその期間に有効なもの。

グループ①：運転免許証、自動車関連書類（車検証・自動車保険証書）、健康保健証、
マイナンバーカード（番号は黒塗り）のいずれか 1 つ以上

グループ②：住民票（保護者と対象選手の記載があるもの）、戸籍抄本のいずれか 1 つ以上

グループ③：公共料金等の領収書、金融関係記録（クレジットカード利用明細書等）、
医療費額通知書等、ワクチン接種証明、インターネット・ケーブルテレビ・衛星放送関連等

注）各書類には日付・住所・保護者名が明確に記載されていること

住民票の保護者名は他の証明書類と保護者名は一致のこと

※ その他詳細は携行書類ガイド参照

- 5) 登録書提出期限：4 月 25 日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 6) 抽選会：4 月 25 日（土） *登録書 1 部および選手名簿頁 3 部コピー、選手提出一式持参要
- 7) 試合日程：5 月 4 日(祝月)／予備日 5 日(祝火)
*天候により変更あり。
- 8) 参加資格：次頁表による。（12 名から 14 名／1 番からの連番とする）
但し、登録は 1 月 31 日までの入団生に限る
- 9) 大会参加費：1 チーム 5,000 円
- 10) 連合：地区責任者が承認した連合リーグの出場を認める。（構成は近接 3 リーグ以内）
- 11) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3 チーム総当たり・2 チーム 2 試合）で行う。
- 12) シード：無
- 13) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 14) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：7 時 30 分
- 15) 第 1 試合ベンチ入り時間：8 時 *第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 16) 第 1 試合開始時間：8 時 30 分 第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 17) 試合時間制限：無
- 18) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（8 回よりタイブレーク方式）
- 19) コールド規定：4 回_15 点／5 回以降_10 点
- 20) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 21) 投手規則：リトル年齢 14・13 歳_95 球／12 歳_85 球
- 22) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 23) 適用大会規則：2026 年シーズン N P O 法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表 6、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

注：リトルリーグ年齢表は次頁

ジュニア部門 アジア太平洋中東選手権大会 日本地区予選 リトルリーグ北関東連盟大会 リトルリーグ年齢表

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：

H24	⇒誕生年(和暦)
2012年	⇒誕生年(西暦)
14	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学6年	H26	H26	H26	H26	H26							
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年							
	12	12	12	12	12							
中学1年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12
中学2年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
中学3年						H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
						2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
						14	14	14	14	14	14	14

2026年シーズン

夏季大会



IX ティーボール部門

第42回『武蔵コーポレーション杯』リトルリーグ北関東連盟大会

X メジャー部門

文部科学大臣杯 JA 共済トーナメント

第60回全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会

XI インターミディエット部門

JA 共済杯 2026 全国選抜リトルリーグ野球大会

兼『産経新聞旗争奪』東日本選手権

リトルリーグ北関東連盟大会

主催者：NPO 法人リトルリーグ北関東連盟



この大会はスポーツ振興くじ助成金を受けて実施します

IX 夏季大会ティーボール部門『武蔵コーポレーション杯』第42回 ティーボール リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：4月18日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出：不要
- 5) 抽選会：4月25日（土）
- 6) 試合日程：5月10日（日）／予備日5月24日（日） *天候により変更あり。
- 7) 参加資格：3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 8) 連合：連合を認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：有（春大会ティーボール部門 北関東連盟大会_優勝・準優勝）
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)／チーム受付時間：7時／7時30分
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時45分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（35分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：なし
- 19) 打順：打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが途中からの変更は出来ない。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表10、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

X 夏季大会メジャー部門 文部科学大臣杯 JA 共済トーナメント 第 60 回全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会

※ 登録は 2026 年 1 月 31 日までの入団生に限る

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：5 月 16 日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 携行書類：下記グループ①～③からそれぞれ 1 つ以上の書類が必要。

発行日付は 2025 年 2 月 1 日から 2026 年 1 月 31 日まで、もしくはその期間に有効なもの。

グループ①：運転免許証、自動車関連書類（車検証・自動車保険証書）、健康保健証、
マイナンバーカード（番号は黒塗り）のいずれか 1 つ以上

グループ②：住民票（保護者と対象選手の記載があるもの）、戸籍抄本のいずれか 1 つ以上

グループ③：公共料金等の領収書、金融関係記録（クレジットカード利用明細書等）、
医療費額通知書等、ワクチン接種証明、インターネット・ケーブルテレビ・衛星放送関連等

注）各書類には日付・住所・保護者名が明確に記載されていること

住民票の保護者名は他の証明書類と保護者名は一致のこと

※ その他詳細は携行書類ガイド参照。

- 5) 登録書提出期限：5 月 23 日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 6) 抽選会：5 月 30 日（土） *登録書 1 部および選手名簿頁 3 部コピー、提出書類一式持参要
- 7) 試合日程：6 月 7 日(日)／14(日)／21 日(日)／予備日 28(日) *天候により変更あり。
- 8) 参加資格：下表による。（12 名から 14 名／1 番からの連番とする）
但し、登録は 1 月 31 日までの入団生に限る
- 9) 連合：認めない。
- 10) 大会参加費：1 チーム 5,000 円
- 11) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3 チーム総当たり・2 チーム 2 試合）で行う。
- 12) シード：有（冬季大会メジャー部門『理事長杯』北関東連盟大会：優勝／準優勝）
- 13) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位 4 チーム）
- 14) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8 時
- 15) 第 1 試合ベンチ入り時間：8 時 30 分 *第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 16) 第 1 試合開始時間：9 時 第 2 試合以降、第 1 試合終了時点競技部より指示
- 17) 試合時間制限：無
- 18) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（7 回よりタイブレーク方式）
- 19) コールド規定：3 回_15 点／4 回以降_10 点
- 20) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 21) 投手規則：リトル年齢 12・11 歳_85 球／10 歳_75 球
- 22) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 23) 適用大会規則：2026 年シーズン N P O 法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表 7
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

注：リトルリーグ年齢表は次頁

夏季大会メジャー部門 文部科学大臣杯 JA 共済トーナメント
第 60 回全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会 リトルリーグ年齢表
2026年リトルリーグ年齢表

⇒誕生日(和暦)	H25
⇒誕生日(西暦)	2013年
⇒リトル年齢	12

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学4年	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10							
小学5年	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10
小学6年	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11
中学1年						H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12

X I 夏季大会インターミディエット部 JA共済杯 2026 全国選抜リトルリーグ野球大会
兼『産経新聞旗争奪』東日本選手権リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：6月13日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：6月20日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：6月27日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：7月5日（日）／12日（日）／19日（日）／予備日20日（祝月） *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（10名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 試合出場選手：14名全員出場（試合毎にベンチ入り20名より選出しメンバー表記載14名選手のみ）
※メンバー表に記載ない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコート等を着用すること。
- 9) 連合：理事長承認により認める。近隣3リーグ以内
- 10) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 11) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 12) シード：無
- 13) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 14) 集合時間（役員・審判部・競技部・広報部）：8時
- 15) 第1試合ベンチ入り時間：8時30分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 17) 試合時間制限：無
- 18) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（7回終了時点、同点の場合、8回よりタイブレーク方式）
- 19) コールド規定：3回_15点／4回_10点／5回_7点
- 20) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 21) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 22) 投手規則：リトル年齢13歳_95球／12・11歳_85球
- 23) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表8、別表9
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：

H25	⇒誕生年(和暦)
2013年	⇒誕生年(西暦)
13	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27							
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12
中学2年						H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
						2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
						13	13	13	13	13	13	13

2026年シーズン

秋季大会



XII インターミディエット部門

『サイキョウ・ファーマ旗争奪』リトルリーグ北関東連盟大会

XIII マイナー部門

『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

XIV ティーボール部門

『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

XV メジャー部門

『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

主催者：NPO 法人リトルリーグ北関東連盟



この大会はスポーツ振興くじ助成金を受けて実施します

XII 秋季大会インターミディエット部門 『サイキョウ・ファーマ旗争奪』
リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：宇都宮リーグ
- 2) エントリー締切り：8月15日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内もしくは栃木県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：8月22日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：8月29日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：9月6日（日）／13（日）／予備日20（日） *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（10名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 試合出場選手：14名全員出場（試合毎にベンチ入り20名より選出しメンバー表記載14名選手のみ）
※メンバー表に記載ない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコート等を着用すること。
- 9) 連合：理事長承認により認める。
- 10) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 11) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 12) シード：無
- 13) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位4リーグ）
- 14) 集合時間（役員・審判部・競技部・広報部）：7時30分
- 15) 第1試合ベンチ入り時間：8時 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 第1試合開始時間：8時30分 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 17) 試合時間制限：有（2時間で新しいイニングに入らない。）
- 18) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（7回終了時点または時間制限後、同点の場合、8回よりタイブレーク方式）
- 19) コールド規定：4回_15点／5回_10点／6回_7点
- 20) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 21) 投手規則：リトル年齢12・11歳_85球／10歳_75球
- 22) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 23) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表3、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：	H25	⇒誕生年(和暦)
	2013年	⇒誕生年(西暦)
	12	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年						H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
						2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
						12	12	12	12	12	12	12

XⅢ 秋季大会マイナー部門『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：8月15日(土)
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：8月22日(土) *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：8月29日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：9月20日(日)／21(祝月)／予備日22(祝火) *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（9名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 連合：理事長承認により認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3チーム総当たり・2チーム2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有（上位4リーグ）
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8時
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時30分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（1時間20分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：3回_15点／4回_10点／5回_7点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 投手規則：リトル年齢10・9歳_75球／8歳_50球
- 21) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 22) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表2、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：	H28	⇒誕生年(和暦)
	2016年	⇒誕生年(西暦)
	10	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学3年	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H29	H30	H30	H30
	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2017年	2018年	2018年	2018年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H28	H29	H29	H29
	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2016年	2017年	2017年	2017年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9

XIV 秋季大会ティーボール部門『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：8月29日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出：不要
- 5) 抽選会：9月12日（土）
- 6) 試合日程：9月22日（祝火）／予備日10月4日（日）＊天候により変更あり。
- 7) 参加資格：2年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 8) 連合：理事長承認により認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 13) 集合時間（役員・審判部・競技部・広報部）：7時
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時45分 ＊第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：有（30分で新しいイニングに入らない。）
- 17) 延長戦（トーナメント戦の場合）：無（6回終了時点または時間制限後、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：なし
- 19) 打順：打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが途中からの変更は出来ない。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表10、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

X V 秋季大会メジャー部門 『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会

- 1) 主管：埼玉武蔵リーグ
- 2) エントリー締切り：8月29日（土）
- 3) 開催場所：埼玉県内（参加リーグのグラウンドを借用）
- 4) 登録書提出期限：9月5日（土） *担当競技部へ提出（電子ファイル可）
- 5) 抽選会：9月12日（土） *登録書1部および選手名簿頁3部コピー持参要
- 6) 試合日程：9月23日(祝水)／9月27日(日)／予備日10月4日(日) *天候により変更あり。
- 7) 参加資格（選手人数／背番号）：下表による。（9名から20名／1番からの連番とする）
- 8) 連合：理事長承認により認める。
- 9) 大会参加費：1チーム 5,000円
- 10) 試合方式：エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 11) シード：無
- 12) 開会式／表彰式&閉会式の有無：無／有
- 13) 集合時間(役員・審判部・競技部・広報部)：8時
- 14) 第1試合ベンチ入り時間：8時30分 *第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 15) 第1試合開始時間：9時 第2試合以降、第1試合終了時点競技部より指示
- 16) 試合時間制限：無
- 17) 延長戦(トーナメント戦の場合)：無（6回終了時点、同点の場合、7回よりタイブレーク方式）
- 18) コールド規定：3回_15点／4回_10点／5回_7点
- 19) 試合終了後：対戦両監督は本部席で登録書添付の『投球数記録&捕手確認シート』チェック・サインのこと。
- 20) 注意事項：感染予防対策は、各リーグで責任をもって十分講じること。
- 21) 投手規則：リトル年齢12・11歳_85球／10歳_75球
- 22) 適用大会規則：2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則・別表2、
その他 Little League Baseball ルールブックによる。

2026年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生年(和暦)
	2014年	⇒誕生年(西暦)
	12	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11

(大会規則・別表 1) レギュラーシーズン主な規則と留意点

2026年1月

【メジャー音部門】

1. 選手登録

年齢：リトル年齢 9 歳・10 歳・11 歳・12 歳の男女とする。

人数：14 名以内

2. 全員出場義務：全選手連続打順制を採用して全選手が打席にたつこと。

3. コーティシーランナー：2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。

4. 監督とコーチは投手のウォームアップをすることが許される。

5. コールド規定：3 回 15 点、4 回 10 点、5 回 8 点を採用

6. 前年 9 月よりトーナメントチーム結成までに 12 試合以上実施が必要。（選手は 8 試合出場が必要）

【インターミディエット音部門】

1. 選手登録

年齢：リトル年齢 11 歳・12 歳・13 歳の男女とする。

人数：14 名以内

2. 全員出場義務：全選手連続打順制を採用して全選手が打席にたつこと。

3. コーティシーランナー：2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。

4. 監督とコーチは投手のウォームアップをすることが許される。

5. コールド規定：4 回 15 点、5 回 10 点、6 回 8 点を採用

6. 前年 9 月よりトーナメントチーム結成までに 12 試合以上実施が必要。（選手は 8 試合出場が必要）

【ジュニア音部門】

1. 選手登録

年齢：リトル年齢 12 歳・13 歳・14 歳の男女とする。

人数：14 名以内

2. 全員出場義務：全選手連続打順制を採用して全選手が打席にたつこと。

3. コーティシーランナー：2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。

4. 監督とコーチは投手のウォームアップをすることが許される。

5. コールド規定：4 回 15 点、5 回 10 点、6 回 8 点を採用

6. 前年 9 月よりトーナメントチーム結成までに 12 試合以上実施が必要。（選手は 8 試合出場が必要）

(大会規則・別表 2) メジャー・マイナー大会規則

2026年1月暫定

I 大会規則

2026年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

- メジャー大会選手登録は、リトルリーグ年齢 10 歳・11 歳・12 歳の男女とする。
(4 月～8 月生まれの 13 歳の選手を認めない)
秋季大会は、学年を採用して、小学 5 年・6 年生に限定する。
マイナー大会は、学年を採用して、小学 3 年・4 年・5 年生に限定する。
(秋季大会は、小学 3 年・4 年生に限定する)
連合チームの編成を認める。(構成 3 リーグ以内)
選手は 9 名以上 20 名までの連番とする。
- 監督およびコーチ
 - 監督 1 名
 - コーチ 2 名まで
 - 監督、コーチは成人のものに限る。
 - 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。
- 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。

III 服装

- 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名またはチーム名の表示のあるものに限る。
なお、白のアンダーシャツは認めない。
連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
- 監督・コーチの上着は、白の襟付きシャツ、スラックス（ズボン）は下記の通りとする。
 - 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - 華美な色は不可。
 - 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)
 - チノパンは可。
 - ジーンズは不可。
 - ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「(1) 項」に順ずるとする。
 - 監督、コーチは同一の服装であること。
 - リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
- 監督・コーチの帽子は、選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、マスク（スロートガードのどあて付）、ファウルカップを着用しなければならない。
2. 非木製バットは、U S A Bat 規格に合致したものでなければならない。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。競技部員、審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
7. ヘルメットの顎ひもをきちんと着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
9. グラブのひもは、必要以上に長いものは認めない。
10. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
11. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。
12. 投手には頭部保護パッドを着用することが望ましい。 ※頭部保護パッドは投手用に限る。

V 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より7分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
4. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合3名まで補助係を認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 延長戦は行わない。7回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - (1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - (2) 打者は6回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が2塁走者となる。ルール上適格な代走を走者として出場させることもできる。
 - (3) 投手は6回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
2. 全試合、3回15点差、4回10点差、5回7点差によるコールドゲームを採用する。
3. マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。
4. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - (1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - (2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - (3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
 - (4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - (5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - (6) コーチスボックスから出て自チーム打者および塁上の走者に指示した場合は攻撃側のタイム数に数える。

- (7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1 回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2 回目は監督が直ちに退場となる。
5. ベンチ内の監督およびコーチは、みだりにベンチを離れることはできない。
6. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は 1 イニング 1 回である。
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。
ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
7. 監督、コーチが、1 イニングに同一投手のもとへ 1 度行くことができるが、2 度目にはその選手は投手から退かなければならない。また 1 試合に同一投手のもとへ 2 度行くことができるが、3 度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。
8. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
9. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
10. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。
11. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
12. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」にジェスチャーとコールをする行為を禁止する。
13. 臨時代走
(1) 打者および走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。
(2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。
(3) 頭部に投球および送球を受けた時には、必ず臨時代走を出すこと。
(4) 2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
14. 走者が帰塁する場合を除きヘッドスライディングをした場合はアウトになる。
15. 不正投球が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
16. 反則投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
17. 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
- (1) 自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合、監督および当該者を退場させる。
- (2) 審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。
- (3) VIの 10、11 で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は
- ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
 - ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
- この時に走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。

この場合全ての記録は有効となる。

2. 試合成立（4回完了または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合は、サスペンデッドゲームとする。
4. 試合成立後にイニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。41球以上投げた投手は、既定の休息日は必要となる。
 - (1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
 - (2) 中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」は、採用しない。
2. 投手の規則
 - (1) 降板した投手はその試合では投手に戻れない。
 - (2) 投手は1日に投球できる投球数は下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13歳選手	95球
11-12歳選手	85球
9-10歳選手	75球
8歳選手	50球

- (3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。
- (4) 選手は1日に2試合以上投球を務めることはできない。
- (5) 休息日

1日の投球数	休息日
66球以上	4日
51～65球	3日
36～50球	2日
21～35球	1日
20球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での投球数が対象となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

- (6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

 - a. その打者が出塁する
 - b. その打者がアウトになる

c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する

d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

(7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

(8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

a. その打者が出塁する

b. その打者がアウトになる

c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する

d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3. 申告敬遠

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知した時の打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補貝リ

1. ベンチ内のプレーについて
 - (1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - (2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。

3. 全選手がファウルラインを越えた時に、アピール権は消滅する。
 4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。
なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
 5. ネクストバッタースボックスは作らない。次打者はベンチ出入口付近に待機すること。
 6. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
 7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
 8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。
 9. グラウンド（ベンチを含む）内は禁煙である。
 10. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
 11. コーチスボックスの選手のコールドスプレー持参を禁止する。
 12. 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかねばならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）
ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。
注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。
- 以上

(大会規則・別表 3) インターミディエイト大会規則

2026年1月暫定

I 大会規則

2026年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

1. チーム登録

理事長が承認した連合チームの編成を認める。(構成は近傍3リーグ以内)

2. 選手登録

(1) 年齢 リトルリーグ年齢 11歳・12歳・13歳の選手

秋季大会は、学年を採用して小学5年・6年生・中学1年生(9月～3月生まれ)に限定する。

(2) 人数 10名以上20名以内

試合出場選手は14名以内(試合毎に選出して打順表に記載する)

3. 監督およびコーチ

(1) 監督 1名

(2) コーチ 2名まで

(3) 監督、コーチは成人のものに限る。

(4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。

4. 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。

但し、打順表に記載のない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコートを着用する。

5. 試合出場選手の義務

試合出場選手は、規則IXに明記されている全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名またはチーム名の表示のあるものに限る。

なお、白のアンダーシャツは認めない。

連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。

2. 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス(ズボン)は下記のとおりとする。または通常のユニホームを着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。

1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュの各色系を可とする。

2) 華美な色は不可。

3) 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)

4) チノパンは可。

5) ジーンズは不可。

6) ショートパンツは可とする。

ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下(ハイソックス、短いソックス両方可)の色は、上記「1」項に準ずるとする。

7) 監督、コーチは同一の服装であること。

8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。

9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。

3. 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、マスク、スロートガードおよびファウルカップを着用する。
2. 非木製バットは、U S A Bat 規格に合致したものでなければならない。また、B B C O R 規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。競技部員、審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
7. 打者用ヘルメット（7 個）はメジャー部門と同一のものを使用できるが、顎ひものないヘルメットも使用可とする。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
9. グラブのひもは、必要以上に長いものは認めない。
10. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の 1 色でなければならない。
11. 金属製スパイクの使用は可とする。
12. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。
13. 投手には頭部保護パッドを着用することが望ましい。

V 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より 7 分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
4. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合 3 名まで補助係を認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 延長戦は行わない。8 回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - (1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - (2) 打者は 7 回終了時の継続打者としその回に一番後に打順が回ってくる選手が 2 塁走者となる。
 - (3) 投手は 7 回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
2. 全試合、4 回 1 5 点差、5 回 1 0 点差、6 回 7 点差によるコールドゲームを採用する。
3. 走者のヘッドスライディングは許される。
4. ボークは適用される。
 - (1) 投手板に触れている投手が、一塁へ送球するまねだけして、実際に送球しなかった場合。
 - (2) 投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
 - (3) ボークが宣告された際に投球がなされた場合、打者がその投球に対しプレーしたかどうかにかかわらず、投球数はカウントされる。ただし、ピックオフを意図したケースで宣告されたボーク、あるいは投手が実際に投球しなかった

場合は、投球数にはカウントしない。

5. ネクストバッタースボックスは使用できる。

(ただし、グラウンドの広さ次第でネクストバッタースボックスを設置しない場合もある)

6. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。

- (1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
- (2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
- (3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
- (4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
- (5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
- (6) コーチスボックスから出て自チーム打者および塁上の走者に指示した場合は攻撃側のタイム数に数える。
- (7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。

7. ベンチ内の監督およびコーチは、みだりにベンチを離れることはできない。

8. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。

なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。

ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。

9. 監督、コーチが、1イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。

10. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。

ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。

11. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。

12. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。

13. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。

14. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。

15. 臨時代走

- (1) 打者および走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。

なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。

- (2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。

- (3) 頭部に投球および送球を受けたときには、必ず臨時代走を出す。

- (4) 2アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。

16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。

- (1) 自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合、監督および当該者を退場させる。

- (2) 審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。

(3) VIの12、13で、同様の行為を再度審判員が見つけたときは

- ①攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
- ②打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
- ③打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。

このときに走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となったとき

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。
この場合全ての記録は有効となる。
2. 試合成立（5回完了または5回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合は、サスペンデッドゲームとする。
4. 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。41球以上投げた投手は、既定の休息日は必要となる。
 - (1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
 - (2) 中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」
 - (1) 試合当日打順表に記載した全選手の連続打順制を採用して全選手が打席に立たなければならない。
 - (2) いずれの打順の選手も先発出場の守備につくことができる。
 - (3) 選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。
 - (4) 試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティーなしで当該選手の打順をスキップすることができる。選手が負傷、病気、または試合会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば（規則4.01注2参照）、その選手は、打撃順の最後に加えられる。
 - (5) 不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる（規則6.07参照）。
 - (6) 選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。
 - (7) 出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、臨時代走と交代する。
 - (8) 監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。
 - (9) 以下のような場合、罰則（監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない）を科すこととする。
 - ①監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。

②チームが予選大会から2回以上この規則に違反した場合。

③監督が故意にこの規則を無視した場合。

(10) すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

2. 投手の規則

(1) 投手は、一度降板し他のポジションに移っても、その試合で一度だけ再登板できる。

(2) 投手が1日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13 歳選手	95 球
11-12 歳選手	85 球

(3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。

(4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での1球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

(5) 選手は1日に2試合以上の投球はできない。

(6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

a. その打者が出塁する

b. その打者がアウトになる

c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する

d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

(7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

(8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦しているときに投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

a. その打者が出塁する

b. その打者がアウトになる

- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3. 申告敬遠

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知したときの打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補則

1. ベンチ内のプレーについて
 - (1) 常設の正規の球場は競技規則のとおりである。
 - (2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全選手がファウルラインを越えたときに、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。
野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
5. 次打者はベンチ出入口付近に待機すること。
6. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。
9. グラウンド（ベンチを含む）内は禁煙である。
10. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
11. コーチスボックスの選手のコールスプレー持参を禁止する。
12. 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかなければならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとはならない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

(大会規則・別表 4) **J A 共済杯第 14 回**インターミディエット
全日本リトルリーグ野球選手権大会
北関東連盟大会規則

2026 年 1 月 暫定

I 大会規則

2026 年リトルリーグ公認競技規則（インターミディエット部門）、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録及び義務

1. チーム登録
地区責任者が承認した連合チームの出場を認める。（構成は近接 3 リーグ以内）
2. 選手登録
 - 1) 年齢 リトルリーグ年齢 11 歳・12 歳・13 歳の選手
 - 2) 人数 14 名以内
3. 監督およびコーチ
 - 1) 監督 1 名
 - 2) コーチ 2 名まで
 - 3) 監督、コーチは成人のものに限る。
 - 4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。
4. 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。
5. 登録選手の義務
登録選手は全員試合に出場し、規則 VI に明記されている全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
 - ① なお、白色のアンダーシャツは認められない。
 - ② 連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
2. 監督・コーチの服装は通常のユニホーム、帽子を着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。成人のベースコーチのヘルメット着用は任意とする。（ヘルメットには J A 共済シールを貼付する）
 - 1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュの各色系を可とする。
 - 2) 華美な色は不可。
 - 3) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - 4) チノパンは可。
 - 5) ジーンズは不可。
 - 6) ショートパンツは可とする。ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「1）項」に準ずるとする。
 - 7) 監督、コーチは同一の服装であること。
 - 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。

9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。

IV 用具

1. 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）付きのマスク、スロートガード、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、及びカップを着用する。
2. 非木製バットは、U S A B a t 規格に合致したものでなければならない。また、B B C O R 規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
7. 打者用ヘルメットは（7 個）はメジャー部門と同一のものを使用できるが、顎ひものないヘルメットも使用可とする。
また、フェイスガード付き、C フラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
9. グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。
10. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の 1 色でなければならない。
11. 金属製スパイクの使用は可とする。
12. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。
13. 投手には頭部保護パッドを着用することが望ましい。

V 試合の準備

1. ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より 7 分間とするが、都合でカットする場合もある。
4. シートノック時に限り背番号なしのユニホームで 3 人まで自チームの補助係として認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営(連盟大会)

1. 延長戦は行わない。8 回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - 2) 打者は 7 回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が 2 塁走者となる。
 - 3) 投手は 7 回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
2. 全試合、4 回 1 5 点差または 5 回以降 1 0 点差によるコールドゲームを採用する。
3. 走者のヘッドスライディングは許される。
4. ボークは適用される。
 - 1) 投手板に触れている投手が、一塁へ送球するまねだけして、実際に送球しなかった場合。
 - 2) 投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
 - 3) ボークが宣告された際に投球がなされた場合、打者がその投球に対しプレーしたかどうかにかかわらず、投球数は

カウントされる。ただし、ピックオフを意図したケースで宣告されたバーク、あるいは投手が実際に投球しなかった場合は、投球数にはカウントしない。

5. ネクストバッタースボックスは使用できる。(ただし、グラウンドの広さ次第でネクストバッタースボックスを設置しない場合もある)
6. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - 1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - 2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - 3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
(ヘルメットにはJ A 共済シールを貼付する)
 - 4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - 5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - 6) コーチスボックスから出て自チーム打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
 - 7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。
7. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることはできない。
8. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニングに1回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
9. 監督、コーチが、1イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手および内野手が集合しても良い。
監督、コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
10. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
11. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
12. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、止めさせる。
13. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
14. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。
15. 臨時代走
 - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、臨時代走は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、打順はスキップとなり、守備についている場合は交代となる。
 - 3) 頭部に投球及び送球を受けたときには、必ず臨時代走を出す。
 - 4) 2アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督、コーチ、選手の退場

1. 次の場合、大会本部及び審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し暴力及び暴言を吐いた場合、監督及び当該

者を退場させる。

2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

3) VIの12、13で、同様の行為を再度審判員が見つけたときは

① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。

② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。

③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。

このときに走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となったとき

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。

2. 試合成立（5回完了、または5回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。

3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。

4. 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。

（注）サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。

5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。

41球以上投げた投手は、既定の休息日が必要となる。

1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。

2) 中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」

1) 試合当日ベンチ入りした全選手の連続打順制を採用して全選手が打席に立たなければならない。

2) いずれの打順の選手も先発出場の守備につくことができる。

3) 選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。

4) 試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティーなしで当該選手の打順をスキップすることができる。

選手が負傷、病気、または試合会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば（規則4.01注2参照）、その選手は、打撃順の最後に加えられる。

5) 不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる（規則6.07参照）。

6) 選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。

7) 出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、臨時代走と交代する。

8) 監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。

9) 以下のような場合、罰則（監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない）を科すこととする。

- ① 監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。
- ② チームが予選大会から2回以上この規則に違反した場合。
- ③ 監督が故意にこの規則を無視した場合。

10) すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

2. 「投手の規則」

1) 投手は一度降板し他のポジションに移っても、その試合で一度だけ再登板できる。

注：同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。

ただし、投球制限により交代する場合を除く。

2) 投手が1日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13歳選手	95球
11-12歳選手	85球

3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。

4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1日の投球数	休息日
66球以上	4日
51～65球	3日
36～50球	2日
21～35球	1日
20球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での投球数が対象となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

5) 選手は1日に2試合以上の投球はできない。

6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2 試合行った場合は、合計 4 イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

- 8) 捕手を 3 イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日 2 1 球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦しているときに投球制限数の 2 0 球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第 3 アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。

3. 「申告敬遠」

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に 1 回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注 1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注 2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知したときの打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補貝リ

1. ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則のとおりである。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるのでボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全野手がファウルラインを越えたときにアピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。

なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に 1 個の進塁を認める。

野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。

5. 次打者はベンチの出入り口付近に待機すること。

6. 監督、コーチがグラウンドに入るときはコートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。
9. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
10. コーチスボックスの選手のコールDSPレー持参を禁止する。
11. 打者はバットースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバットースボックス内にとどめておかねばならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）
ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバットースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バットースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。1 人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとはならない。
注：ストライクのコールが 3 ストライク目でない限り、打者はバットースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

(大会規則・別表 5) M L B カップ大会規則

2026年1月暫定

I 大会規則

2026 年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

1. 選手登録は、学年を採用して、小学 4 年・5 年生に限定する。
ただし、チーム編成が困難な場合は小学 3 年生の登録を認める。（選手の技量を鑑みて判断すること）
連合チームの編成を認める。（構成リーグ数制限なし）
選手は 9 名以上 20 名までの連番とする。
2. 監督およびコーチ
 - (1) 監督 1 名
 - (2) コーチ 2 名まで
 - (3) 監督、コーチは成人のものに限る。
 - (4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んではならない。
3. 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名またはチーム名の表示のあるものに限る。
なお、白のアンダーシャツは認めない。
連合リーグは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
2. 監督・コーチの上着は、白の襟付きシャツ、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。
 - (1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - (2) 華美な色は不可。
 - (3) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - (4) チノパンは可。
 - (5) ジーンズは不可。
 - (6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「(1) 項」に順ずるとする。
 - (7) 監督、コーチは同一の服装であること。
 - (8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - (9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
3. 監督・コーチの帽子は、選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、マスク（スロートガードのどあて付）、ファウルカップを着用しなければならない。
2. 非木製バットは、U S A Bat 規格に合致したものでなければならない。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。競技部員、審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスケットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。

5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要ときは大会本部または審判員が確認して許可する。
7. 色の制限は特に定めないが、ミラーグラス（反射するもの）とメガネ枠が白色のものは認めない。
ヘルメットの顎ひもをきちんと着用することが望ましい。またフェイスガード付きCフラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. 守備用フェイスガード使用は選手が必要ときは大会本部または審判員が確認して許可する。
9. グラブのひもは、必要以上に長いものは認めない。
10. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
11. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。
12. 投手には頭部保護パッドを着用することが望ましい。

Ⅴ 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より7分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
4. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合3名まで補助係を認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

Ⅵ 試合の運営（連盟大会）

1. 試合は6回制とし、延長戦は行わない。同点の場合は7回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - (1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - (2) 打者は6回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が2塁走者となる。ルール上適格な代走を走者として出場させることもできる。
 - (3) 投手は6回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
2. 全試合、3回15点差、4回10点差、5回7点差によるコールドゲームを採用する。
3. 振り逃げ規則は適用しない。
4. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - (1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - (2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - (3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
 - (4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - (5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - (6) コーチスボックスから出て自チーム打者および塁上の走者に指示した場合は攻撃側のタイム数に数える。
 - (7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。
5. ベンチ内の監督およびコーチは、みだりにベンチを離れることはできない。
6. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。

ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。

7. 監督、コーチが、1 イニングに同一投手のもとへ1 度行くことができるが、2 度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1 試合に同一投手のもとへ2 度行くことができるが、3 度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。
8. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
9. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
10. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。
11. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
12. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」にジェスチャーとコールをする行為を禁止する。
13. 臨時代走
 - (1) 打者および走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。
 - (2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。
 - (3) 頭部に投球および送球を受けた時には、必ず臨時代走を出すこと。
 - (4) 2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
14. 走者が帰塁する場合を除きヘッドスライディングをした場合はアウトになる。
15. 不正投球が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
16. 反則投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
17. 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - (1) 自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合、監督および当該者を退場させる。
 - (2) 審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。
 - (3) VIの 10、11 で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は
 - ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
 - ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
この時に走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。
この場合全ての記録は有効となる。
2. 試合成立（4 回完了または4 回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合は、サスペンデッドゲームとする。
4. 試合成立後にイニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で

同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。

5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。41球以上投げた投手は、既定の休息日は必要となる。

- (1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
(2) 中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」は、採用しない。
2. 投手の規則

- (1) 降板した投手はその試合では投手に戻れない。
(2) 投手は1日に投球できる投球数は下記のとおりとする。

リトル年齢区分	最大投球数
11 歳	85 球
9-10 歳	75 球
8 歳	50 球

- (3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。
(4) 選手は1日に2試合以上投手を務めることはできない。
(5) 休息日

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での1球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

- (6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレイできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
b. その打者がアウトになる
c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレイすることができる。

- (7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数である。

また、2 試合行った場合は合計 4 イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

(8) 捕手を 3 イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日 2 1 球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦している時に投球制限数の 2 0 球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する。
- b. その打者がアウトになる。
- c. 第 3 アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3. 申告敬遠

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っている時でも構わない。

選手は、試合中に 1 回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注 1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注 2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知した時の打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補貝リ

1. ベンチ内のプレイについて
 - (1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - (2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全選手がファウルラインを越えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に 1 個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
5. ネクストバッタースボックスは作らない。次打者はベンチ出入口付近に待機すること。
6. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。

8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。
9. グラウンド（ベンチを含む）内は禁煙である。
10. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
11. コーチスボックスの選手のコールDSPレー持参を禁止する。
12. 打者はバットースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバットースボックス内にとどめておかなければならない。（例外：トーナメント規則 3.試合規定参照）

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバットースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バットースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバットースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

以上

(大会規則・別表 6) ジュニアリーグ 大会規則

アジア太平洋中東選手権日本地区予選 主な規則と留意点

2026年1月暫定

I 大会規則

2026年リトルリーグ（ジュニアリーグ部門）公認規定競技規則、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録及び義務

- 1 チーム登録
地区責任者が承認した連合チームの出場を認める。（構成は近接3リーグ以内）
- 2 選手登録
 - 1) 年齢 リトルリーグ年齢12歳・13歳・14歳の選手
 - 2) 人数 14名以内
- 3 監督およびコーチ
 - 1) 監督 1名
 - 2) コーチ 2名まで
 - 3) 監督、コーチは成人のものに限る。
 - 4) 携帯電話等外部と連絡することができる機器類はベンチへ持ち込んではならない。
- 4 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。
- 5 登録選手の義務
登録選手は全員試合に出場し、規則IXに明記されている全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

- 1 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
 - ① なお、白色のアンダーシャツは認められない。
 - ② 連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
- 2 監督・コーチの服装は通常のユニホーム、帽子を着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。
 - 1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュの各色系を可とする。
 - 2) 華美な色は不可。
 - 3) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - 4) チノパンは可。
 - 5) ジーンズは不可。
 - 6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「1）項」に準ずるとする。
 - 7) 監督、コーチは同一の服装であること。
 - 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - 9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。

Ⅳ 用具

- 1 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）付きのマスク、スロットガード、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、及びキャップを着用する。
- 2 非木製バットは、U S A B a t 規格に合致したものでなければならない。また、B B C O R 規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
- 3 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
- 4 バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
- 5 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、投手は使用出来ない。
- 6 サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
- 7 打者用ヘルメットは（7 個）はメジャー部門と同一のものを使用できるが、顎ひものないヘルメットも使用可とする。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
- 8 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
- 9 グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。
- 10 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の 1 色でなければならない。
 - 1 1 金属製スパイクの使用は可とする。
 - 1 2 出場選手には安全確保のため、胸部保護パッドを着用することが望ましい。

Ⅴ 試合の準備

- 1 ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
- 2 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 3 シートノックは後攻より 7 分間とするが、都合でカットする場合もある。
- 4 シートノック時に限り背番号なしのユニホームで 3 人まで自チームの補助係として認める。
- 5 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

Ⅵ 試合の運営（連盟大会）

1. 延長戦は行わない。8 回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - 2) 打者は 7 回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が 2 塁走者となる。
 - 3) 投手は 7 回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
2. 全試合、4 回 1 5 点差または 5 回以降 1 0 点差によるコールドゲームを採用する。
3. 走者のヘッドスライディングは許される。
4. ボークは適用される。
 - (ア) 投手板に触れている投手が、一塁へ送球するまねだけして、実際に送球しなかった場合。
 - (イ) 投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
 - (ウ) ボークが宣告された際に投球がなされた場合、打者がその投球に対しプレーしたかどうかにかかわらず、投球数はカウントされる。ただし、ピックオフを意図したケースで宣告されたボーク、あるいは投手が実際に投球しなかった場合は、投球数にはカウントしない。
5. ネクストバッタースボックスは使用できる。（ただし、グラウンドの広さ次第でネクストバッタースボックスを設置しない場合もある）

6. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
- 1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - 2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - 3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
 - ① (ヘルメットにはJ A 共済シールを貼付する)
 - 4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - 5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - 6) コーチスボックスから出て自チーム打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
 - 7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。
7. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることはできない。
8. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニングに1回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
9. 監督、コーチが、1イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
10. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
 - ① ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
11. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
12. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、止めさせる。
13. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
14. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。
15. 臨時代走
- (ア) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
 1. なお、臨時代走は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - (イ) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、打順はスキップとなり、守備についている場合は交代となる。
 - (ウ) 頭部に投球及び送球を受けたときには、必ず臨時代走を出す。
 - (エ) 2アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
16. 試合開始、終了の挨拶のときに監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

Ⅶ 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し暴力及び暴言を吐いた場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 3) VIの14、15で、同様の行為を再度審判員が見つけたときは
 - ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。

② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。

③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。

このときに走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となったとき

- 1 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。
- 2 試合成立（5回完了、または5回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 3 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。
- 4 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。

（注）サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。

- 5 サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。
 - 4 1球以上投げた投手は、既定の休息日が必要となる。
 - 1）中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
 - 2）中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1 「全員出場義務の規則」

- 1）試合当日ベンチ入りした全選手の連続打撃制を採用して全選手が打席に立たなければならない。
- 2）いずれの打順の選手も先発出場の守備につくことができる。
- 3）選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。
- 4）試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティーなしで当該選手の打順をスキップすることができる。選手が負傷、病気、または試合会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば（規則4.01注2参照）、その選手は、打撃順の最後に加えられる。
- 5）不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる（規則6.07参照）。
- 6）選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。
- 7）出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、臨時代走と交代する。
- 8）監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。
- 9）以下のような場合、罰則（監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない）を科すこととする。

① 監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目

的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。

② チームが予選大会から2回以上この規則に違反した場合。

③ 監督が故意にこの規則を無視した場合。

10) すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

2 「投手の規則」

1) 投手は一度降板し他のポジションに移っても、その試合で一度だけ再登板できる。

注：同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。

2) 投手が1日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13-14 歳選手	95 球
12 歳選手	85 球

3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。

4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での1球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

5) 12歳選手は1日に2試合以上の投球はできない。

6) 13歳14歳の投手が、1試合目に30球以内の投球をした場合、その投手は次のいずれかに至るまで投げ続けることができ、同日2試合目にも登板することができる。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

ただし、当日の2試合目の投球数は95球から前の試合の最終打者を完了した時点の累積投球数を減じたものとする。

7) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

8) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

9) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦しているときに投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3 「申告敬遠」

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知したときの打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

X スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行う。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
- 6 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

XI 補則

- 1 ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則のとおりである。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるのでボールデッドとする。
- 2 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
- 3 全野手がファウルラインを越えたときにアピール権は消滅する。
- 4 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。

- 5 監督、コーチがグラウンドに入るときはコートを脱ぐこと。
- 6 ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
- 7 選手はユニホームをきちんと着用すること。
- 8 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
- 9 コーチスボックスの選手のコールスプレー持参を禁止する。
- 10 打者はバッターズボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッターズボックス内にとどめておかねばならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）
ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッターズボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッターズボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。1 人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとはならない。
注：ストライクのコールが 3 ストライク目でない限り、打者はバッターズボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

(大会規則・別表 7) 文部科学大臣杯 J A 共済トーナメント

第 60 回全日本リトルリーグ野球選手権大会

北関東連盟大会規則

2026 年 1 月 暫定

I 大会規則

2026 年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録及び義務

1. 選手登録
 - 1) 年齢 リトルリーグ年齢 10 歳・11 歳・12 歳の選手
 - 2) 人数 14 名以内
2. 監督およびコーチ
 - 1) 監督 1 名
 - 2) コーチ 2 名まで
 - 3) 監督、コーチは成人のものに限る。
 - 4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。
3. 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。
4. 登録選手の義務
登録選手は全員試合に出場し、規則 IX に明記されている特記事項全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
なお、白色のアンダーシャツは認められない。
2. 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。
 - 1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュの各色系を可とする。
 - 2) 華美な色は不可。
 - 3) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - 4) チノパンは可。
 - 5) ジーンズは不可。
 - 6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「1）項」に準ずるとする。
- 7) 監督、コーチは同一の服装であること。
- 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
- 9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
3. 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）付のマスク、スロートガード、プロテクター（ロングタイプまた

はショートタイプも可）、及びカップを着用する。

2. 非木製バットは、U S A B a t 規格に合致したものでなければならない。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。競技部員、審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
7. ヘルメットの顎ひもを着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
9. グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。
10. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
11. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。
12. 投手には頭部保護パッドを着用することが望ましい。

V 試合の準備

1. ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。
4. シートノック時に限り背番号なしのユニホームで3人まで自チームの補助係として認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 予選リーグならび決勝トーナメントの延長戦は行わない。6回が終了して同点の場合、7回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
 - 2) 打者は6回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が2塁走者となる。
 - 3) 投手は6回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。
2. 予選は3チームによるリーグ戦とする。
 - 1) リーグ戦の試合順序
 - ・第1試合・・・1：2
 - ・第2試合・・・第1試合の敗者：3
 - ・第3試合・・・第1試合の勝者：3
 - 2) リーグ戦の順位決定
 - ①勝率 ②失点率 ③直接対戦の勝者 ④得点率 ⑤コイントス
 - ①勝 率・・・勝ち数÷試合数
 - ②失点率・・・総失点÷試合数×6 イニング
 - ④得点率・・・得点数÷試合数×6 イニング
 - ⑤コイントス・・・各チーム代表者1名によるコイントス
3. 決勝トーナメントは予選リーグ A・B・C・D 面の第1位の4リーグとする。
4. 全試合、3回15点差または4回以降10点差によるコールドゲームを採用する。

5. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - 1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - 2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - 3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
(ヘルメットにはJ A共済シールを貼付する)
 - 4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - 5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - 6) コーチスボックスから出て自チーム打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
 - 7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。
6. ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることはできない。
7. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニングに1回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
8. 監督、コーチが、1イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。
監督、コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
9. 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
10. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
11. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、止めさせる。
12. ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
13. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。
14. 臨時代走
 - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、臨時代走は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、打順はスキップとなり、守備についている場合は交代となる。
 - 3) 頭部に投球及び送球を受けた時には、必ず臨時代走を出す。
 - 4) 2アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
15. 走者がヘッドスライディングをした場合は、アウトになる。
16. 反則投球が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
17. 反則投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
18. 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督、コーチ、選手の退場

1. 次の場合、大会本部及び審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し暴力及び暴言を吐いた場合、監督及び当該者を退場させる。

2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

3) VIの9、10で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は

① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。

② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。

③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。

この時に走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。

2. 試合成立（4回完了、または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。

3. 試合成立後に続行不能となったが同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。

4. 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。

（注）サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。

5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。41球以上投げた投手は、既定の休息日が必要となる。

1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。

2) 中断までの投球数が21から40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」

1) 試合当日ベンチ入りした全選手の連続打順制を採用して全選手が打席に立たなければならない。

2) いずれの打順の選手も先発出場の守備につくことができる。

3) 選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。

4) 試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティーなしで当該選手の打順をスキップすることができる。選手が負傷、病気、または試合会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。

また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば（規則4.01注2参照）、その選手は、打撃順の最後に加えられる。

5) 不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる（規則6.07参照）。

6) 選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。

7) 出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、臨時代走と交代する。

8) 監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。

9) 以下のような場合、罰則（監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない）を科すこととする。

- ① 監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。
- ② チームが予選大会から2回以上この規則に違反した場合。
- ③ 監督が故意にこの規則を無視した場合。

10) すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

2. 「投球規定」

1) 降板した投手はその試合では投手に戻れない。

2) 投手が1日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
11-12 歳選手	85 球
10 歳選手	75 球

3) 投手が打者に対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。

4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者に対峙した時点での投球数が対象となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

5) 選手は1日に2試合以上の投球はできない。

6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対している間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者に対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3. 「申告敬遠」

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバットースボックスに入る前でもバットースボックスに入っている時でも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知した時の打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補貝リ

1. ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるのでボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全野手がファウルラインを超えた時にアピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んだでも倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
5. ネクストバットースボックスは作らない。次打者はベンチの出入り口付近に待機すること。
6. 監督、コーチがグラウンドに入るときはコートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。
9. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
10. コーチスボックスの選手のコールスプレー持参を禁止する。
11. 打者はバットースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバットースボックス内にとどめておかなければならない。

ればならない。(例外：トーナメント規則 3.試合規定参照)

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッテースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッテースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッテースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

(大会規則・別表 8) J A 共済杯
2026 全国選抜リトルリーグ野球大会
主な規則と留意点

2026 年 1 月 暫定

I 大会規則

2026 年リトルリーグ公認規定競技規則、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

1 チーム登録

連盟が承認した連合チームの出場を認める。(構成 3 リーグ以内)

2 選手登録

1) 年齢 リトルリーグ年齢 11 歳・12 歳・13 歳の選手

2) 人数 **10 名以上 20 名以内**

試合出場は 14 名以内 (試合毎に選出して打順表に記載する)

3 監督およびコーチ

1) 監督 1 名

2) コーチ 2 名まで

3) 監督、コーチは成人のものに限る。

4) 携帯電話等外部と連絡することができる機器類はベンチへ持ち込んではならない。

4 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。

ただし、打順表に記載のない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコート等を着用する。

5 試合出場選手の義務

試合出場選手は、規則 IX に明記されている全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

1 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。

なお、白色のアンダーシャツは認められない。

連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。

2 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス (ズボン) は下記のとおりとする。

1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。

2) 華美な色は不可。

3) 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)

4) チノパンは可。

5) ジーンズは不可。

6) ショートパンツは可とする。

ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下 (ハイソックス、短いソックス両方可) の色は、上記「1」項に準ずるとする。

7) 監督、コーチは同一の服装であること。

8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。

- 9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
- 3 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

- 1 捕手は試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）付きのマスク、スロートガード、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、及びキャップを着用する。
- 2 非木製バットは、U S A B a t 規格に合致したものでなければならない。また、B B C O R 規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
- 3 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
- 4 バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
- 5 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、投手は使用出来ない。
- 6 サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
- 7 ヘルメットの顎ひもを着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
- 8 守備用フェイスガード使用は選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
- 9 グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。
- 10 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
- 1 1 金属スパイクの使用は可とする。
- 1 2 出場選手には安全確保の為、胸部保護パッドを着用することが望ましい。

V 試合の準備

- 1 ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
- 2 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 3 シートノックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。
- 4 シートノック時に限り背番号なしのユニホームで3人まで自チームの補助係として認める。
- 5 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営(連盟大会)

- 1 延長戦は行わない。7回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
 - 2) 打者は6回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が二塁走者となる。
例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が二塁走者となる。ルール上適格な代走を走者として出場させることもできる。
 - 3) 投手は6回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。
- 2 全試合、3回15点差または4回以降10点差によるコールドゲームを採用する。
- 3 ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - 1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - 2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。

- 3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
(ヘルメットには J A 共済シールを貼付する)
- 4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
- 5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
- 6) コーチスボックスから出て自チーム打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
- 7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1 回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2 回目は監督が直ちに退場となる。
- 4 ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることはできない。
- 5 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は 1 イニングに 1 回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
- 6 監督、コーチが、1 イニングに同一投手のもとへ 1 度行くことができるが、2 度目にはその選手は投手から退かなければならない。また 1 試合に同一投手のもとへ 2 度行くことができるが、3 度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
- 7 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
- 8 投手のウォームアップ時に、打者などが打席に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
- 9 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、止めさせる。
- 10 ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
- 11 ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。
- 12 臨時代走
 - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、臨時代走は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。
 - 3) 頭部に投球及び送球を受けたときには、必ず臨時代走を出す。
 - 4) 2 アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
- 13 走者が帰塁する場合を除きヘッドスライディングをした場合は、アウトになる。
- 14 反則投球が発生したときは走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
- 15 反則投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
- 16 試合開始、終了の挨拶のときに監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し暴力及び暴言を吐いた場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 3) VIの 9、10 で、同様の行為を再度審判員が見つけたときは
 - ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
 - ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。

このときに走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となったとき

- 1 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。
- 2 試合成立（4 回完了、または 4 回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 3 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。
- 4 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。

（注）サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。

- 5 サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに 40 球以下の投球数の投手は、つぎの条件をもとに投手を続けることができる。
 - 4 1 球以上投げた投手は、既定の休息日が必要となる。
 - 1）中断までの投球数が 20 球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
 - 2）中断までの投球数が 21 から 40 球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

- 1 「全員出場義務の規則」は、採用しない。
- 2 投手の規則
 - 1）降板した投手はその試合では投手に戻れない。
 - 2）投手が 1 日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13 歳選手	95 球
11-12 歳選手	85 球
10 歳選手	75 球

- 3）投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。
- 4）投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者に対峙した時点での 1 球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は 3 日間連続して投球してはならない。

5) 選手は1日に2試合以上の投球はできない。

6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至まで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦しているときに投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3 「申告敬遠」

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることがある。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知したときの打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

X スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行う。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
- 6 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

XI 補則

- 1 ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則のとおりである。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるのでボールデッドとする。
- 2 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
- 3 全野手がファウルラインを越えたときにアピール権は消滅する。
- 4 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
- 5 ネクストバッタースボックスは作らない。次打者はベンチの出入り口付近に待機すること。
- 6 監督、コーチがグラウンドに入るときはコートを脱ぐこと。
- 7 ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
- 8 選手はユニホームをきちんと着用すること。
- 9 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
- 10 コーチスボックスの選手のコールドスプレー持参を禁止する。
- 11 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかねばならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。

警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。

1人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

**(大会規則・別表9) S S K 杯 2 0 2 6 インターミディエット
リトルリーグベースボール東日本選手権大会
主な規則と留意点**

2 0 2 6 年 1 月 暫 定

I 大会規則

2 0 2 6 年リトルリーグ公認規定競技規則、トーナメント規則及びガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録及び義務

- 1 チーム登録
連盟が承認した連合チームの出場を認める。
- 2 選手登録
 - 1) 年齢 リトルリーグ年齢 1 1 歳・1 2 歳・1 3 歳の選手
 - 2) 人数 1 0 名以上 2 0 名以内
試合出場は 1 4 名以内（試合毎に選出して打順表に記載する）
- 3 監督およびコーチ
 - 1) 監督 1 名
 - 2) コーチ 2 名まで
 - 3) 監督、コーチは成人のものに限る。
 - 4) 携帯電話等外部と連絡する事が出来る機器類はベンチへ持ち込んで서는ならない。
- 4 登録した監督、コーチ、選手のみベンチに入ることができる。
ただし、打順表に記載のない登録選手はユニホームの上を脱ぐかグラウンドコート等を着用する。
- 5 登録は、各連盟規定の用紙を使用し、当該連盟の承認を受け大会本部に提出する。
- 6 試合出場選手の義務
試合出場選手は、規則 IX に明記されている全員出場義務を果たさなければならない。

III 服装

- 1 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
なお、白色のアンダーシャツは認められない。
連合チームは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
- 2 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。または通常のユニホームを着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。
 - 1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - 2) 華美な色は不可。
 - 3) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - 4) チノパンは可。
 - 5) ジーンズは不可。
 - 6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「1」項に

準ずるとする。

- 7) 監督、コーチは同一の服装であること。
 - 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - 9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
- 3 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

- 1 捕手は試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）付きのマスク、スロートガード、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、及びカップを着用する。
- 2 非木製バットは、U S A B a t 規格に合致したものでなければならない。また、B B C O R 規格に準拠したバットを使用できる。（規則 1.10 参照）
- 3 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
- 4 バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
- 5 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、投手は除く。
- 6 サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
- 7 ヘルメットの顎ひもを着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
- 8 グラブのひもは必要以上に長いものは認めない。
- 9 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
- 10 金属製スパイクの使用は可とする。
- 11 出場選手には安全確保の為、胸部保護パッドを着用することが望ましい。

V 試合の準備

- 1 ベンチは組み合わせ抽選の若い番号を一塁側とする。
- 2 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 3 シートノックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。
- 4 シートノック時に限り背番号なしのユニホームで3人まで自チームの補助係として認める。
- 5 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

- 1 大会1日目は3チームによるリーグ戦とする。リーグ戦は7回で打ち切り、延長戦は行わない。
 - 1) リーグ戦の試合順序
3リーグの場合（数字は各組合せ枠ごとの順番を示す）
 - ・第1試合・・・1：2
 - ・第2試合・・・第1試合の敗者（引分は1）：3
 - ・第3試合・・・第1試合の勝者（引分は2）：3
 - 2) リーグ戦の順位決定
 1. 勝率 2. 失点率 3. 直接対戦の勝者 4. 得点率 5. コイントス
 - ①勝 率・・・勝ち数÷試合数（引き分け試合は勝ち数、試合数に加算しない）
 - ②失点率・・・総失点÷総守備イニング数
 - ③得点率・・・得点数÷総攻撃イニング数

④コイントス・各チーム代表者 1 名によるコイントス

- 2 決勝トーナメントは予選リーグ A・B・C 面の第 1 位と第 2 位の成績上位の 4 リーグとする。
- 3 決勝トーナメントの延長戦は行わない。8 回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
 - 2) 打者は 7 回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が二塁走者となる。
例：5 番打者がその回の先頭打者なら 4 番の打順の選手が 2 塁走者となる。ルール上適格な代走を走者として出場させることもできる。
 - 3) 投手は 7 回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。
- 4 全試合、4 回 1 5 点差または 5 回以降 1 0 点差によるコールドゲームを採用する。
- 5 走者のヘッドスライディングは許される。
- 6 ボークは適用される。
 - 1) 投手板に触れている投手が、一塁へ送球するまねだけして、実際に送球しなかった場合。
 - 2) 投球が打者に当たった場合、反則投球ではなく打者は一塁へ進塁することができる。
 - 3) ボークが宣告された際に投球がなされた場合、打者がその投球に対しプレーしたかどうかにかかわらず、投球数はカウントされる。ただし、ピックオフを意図したケースで宣告されたボーク、あるいは投手が実際に投球しなかった場合は、投球数にはカウントしない。
- 7 ネクストバッタースボックスは使用できる。(ただし、グラウンドの広さ次第でネクストバッタースボックスを設置しない場合もある)
- 8 ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - 1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - 2) 2 人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に 1 人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。
 - 3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
 - 4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - 5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - 6) コーチスボックスから出て自チーム打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
 - 7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1 回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2 回目は監督が直ちに退場となる。
- 9 ベンチ内の監督及びコーチはみだりにベンチを離れることはできない。
- 10 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は 1 イニングに 1 回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
- 11 監督、コーチが、1 イニングに同一投手のもとへ 1 度行くことができるが、2 度目にはその選手は投手から退かなければならない。また 1 試合に同一投手のもとへ 2 度行くことができるが、3 度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチ及び選手はスピーディーに行動すること。
- 12 試合中に野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
- 13 投手のウォームアップ時に、打者などが打席に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
- 14 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、止めさせる。
- 15 ネット裏または観覧席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。

- 1 6 ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のゼスチャーとコールをする行為を禁止する。
- 1 7 臨時代走
 - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、臨時代走は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
 - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。
 - 3) 頭部に投球及び送球を受けた時には、必ず臨時代走を出す。
 - 4) 2アウトの場合、捕手ならびに投手が走者のときに臨時代走を認める。
- 1 8 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し暴力及び暴言を吐いた場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 3) VIの14、15で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は
 - ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
 - ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。この時に走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

- 1 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。この場合全ての記録は有効となる。
- 2 試合成立（5回完了、または5回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 3 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。ただし、大会1日目の予選リーグ戦は、引き分け試合終了とする。
- 4 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
(注) サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。
- 5 サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり、中断までに40球以下の投球数の投手は、つぎの条件のもとに投手を続けることができる。
 - 4 1球以上投げた投手は、既定の休息日が必要となる。
 - 1) 中断までの投球数が20球以下であった場合、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
 - 2) 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。

IX 特記事項

1 「全員出場義務の規則」

- 1) 試合当日ベンチ入りした全選手の連続打撃制を採用して全選手が打席に立たなければならない。
- 2) いずれの打順の選手も先発出場の守備につくことができる。
- 3) 選手は、いつでも試合中に守備につくこと、ならびに守備における再出場ができる。
- 4) 試合開始後、選手が負傷、病気、または試合会場を離れなければならない事情が発生した場合、チームは当該選手の打席が来たときに、ペナルティーなしで当該選手の打順をスキップすることができる。選手が負傷、病気、または試合会場を離れた選手が戻ってきた場合、当該選手は単に打順の元の位置に入れられるだけである。また、選手が試合会場に遅れて到着した場合、監督が当該選手を打順に入れることを選択すれば（規則 4.01 注 2 参照）、その選手は、打撃順の最後に加えられる。
- 5) 不適切な打者は、不正位打者の打撃とみなされる（規則 6.07 参照）。
- 6) 選手が負傷、病気、退場などの理由で打席に立てなくなった場合、打撃順の次の打者が打席に立ち、元の打者のカウントを引き継ぐものとする。
- 7) 出塁して走者となった打者が、負傷、病気、退場などにより走塁できなくなった場合は、臨時代走と交代する。
- 8) 監督は、すべての選手がプレーに参加するための要件を満たすことを保証する責任を単独で負う。
- 9) 以下のような場合、罰則（監督の解任、試合の没収、チームまたはコーチの続く大会への参加資格剥奪を含むがこれに限定されない）を科すこととする。
 - ① 監督またはコーチが試合を茶化すような行為として、選手に試合を長引かせる、または試合を短縮することを目的として意図的に悪いパフォーマンスをするように仕向けた場合。
 - ② チームが予選大会から 2 回以上この規則に違反した場合。
 - ③ 監督が故意にこの規則を無視した場合。
- 10) すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

2 投手の規則

- 1) 投手は一度降板し他のポジションに移っても、その試合で一度だけ再登板できる。
注：同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。
ただし、投球制限により交代する場合を除く。
- 2) 投手が 1 日に投球できるのは下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13 歳選手	95 球
11-12 歳選手	85 球
- 3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。
- 4) 投手はその投球数によって下記休息日（登板禁止日）を守らなければならない。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での1球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

5) 選手は1日に2試合以上の投球はできない。

6) 投手が41球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至まで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレーできる資格を有する。

- a. その打者が出塁する
- b. その打者がアウトになる
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレーすることができる。

7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4イニングはアウト数（12）ではなく、守備についたイニング数とする。

また、2試合行った場合は、合計4イニング以上もその日は投手を務めてはならない。

8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する。
- b. その打者がアウトになる。
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する

3 「申告敬遠」

守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバッタースボックスに入る前でもバッタースボックスに入っているときでも構わない。

選手は、試合中に1回のみ、申告敬遠を与えられることができる。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。監督が申告敬遠を通知した時の打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

X スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行う。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
- 6 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。

- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

XI 補則

- 1 ベンチ内のプレーについて
 - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - 2) 仮設のベンチは危険性があるのでボールデッドとする。
- 2 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
- 3 全野手がファウルラインを超えた時にアピール権は消滅する。
- 4 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
- 5 監督、コーチがグラウンドに入るときはコートを脱ぐこと。
- 6 ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
- 7 選手はユニホームをきちんと着用すること。
- 8 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
- 9 コーチスボックスの選手のコールスプレー持参を禁止する。
- 10 打者はバットースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバットースボックス内にとどめておかねばならない。（例外：トーナメント競技規則 3.試合規定参照）

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバットースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バットースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバットースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

(大会規則・別表 10) ティーボール関東四連盟大会規則

2026年1月暫定

I 大会規則

2026年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則を準用する。

II 球場

1. 外野フェンスはホームベースより45メートルとする。
2. バッターサークルは半径3メートルとする。
3. ファウルラインは半径7メートルとする。
4. ピッチャーサークルは半径1メートルとする。
5. バッターボックスはホームベースの半分（21.6cm）捕手よりに移動する。
6. 捕手の守備位置は一塁・三塁のファウルライン延長線上のバッターサークルにポイントして指定する。
7. 一塁ベースはダブルベースを使用する。
8. その他はリトルリーググラウンドと同一とする。

III 登録

1. 選手は小学3年生以下とし、秋季大会からは2年生以下とする。
2. 選手登録数は、20名以下とする。
3. 指導者は成人で監督1名・コーチ4名以内とする。
4. 複数リーグの混成チームも登録できる。

IV 服装

1. 監督・コーチ・選手の服装はスポーティーなものであれば自由とする。
2. 選手は重複しない背番号を付ける。
3. ベンチに入る者は、必ず野球帽を着用すること。

V 用具

1. 試合球はティーボール公認球（ゼット製）を使用する。
2. バットは、USA bat規格に合致したもの、またはSGマークがあるものとする。また、大会本部が承認したバットも使用することが出来る。
3. 捕手の保護具はヘルメットのみを着用する。
4. 打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
5. 投手に野手と同様に手袋、リストバンドの使用を認める。

VI 試合の運営

1. 試合開始前に各連盟制定の打順表を本部席に提出する。
2. 試合はリーグ戦の場合6回または45分とし、同点の場合は引き分けとする。
また、トーナメント戦の場合も同様とするが、同点の場合はタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める
 - 2) 打者は終了時の継続打順とし、その回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
3. シートノックは後攻より5分間以内とするが、都合でカットする場合もある。

4. コールドゲームは適用しない。

VII 競技方法

1. 攻守は3アウトまたは打者一巡（9名）で交代する。
2. 1 イニングで9人目の打者のときはアウトカウントを2アウトとする。
3. 守備のときに外野に2人の指導者が入ることができる。ただし、準決勝からは入れない。
4. ベースコーチは2人とも指導者とする。
5. ティースタンドにボールをセットするのは球審が行う。
6. 攻撃側の監督またはコーチは球審の横にいて、ティーバーの調整、打者への指導をすることができる。
7. 投手は球審の「プレイ」の合図があったら速やかに、投球動作（偽投）を行う。また、打者は投手の投球動作終了後、直ちにボールを打たなければならない。
8. 投手は打者が打つまでは、ピッチャーサークルから出てはいけない。
9. 投手が投球姿勢に入ったら打者は軸足を移動してはいけない。
10. 打者はティースタンド上のボールを「フルスイング」で打つこと。
11. 三振は適用しない。
12. 走者は打者が打つまで離塁できない。（赤いハンカチルールを適用する）
13. タイムの回数に制限はないが常にスピードアップを心がけること。
14. ヘッドスライディングは進塁、帰塁方向ともにアウトになる。
15. 抗議は認められない。
16. ボールインプレーの悪送球でアウトにされる危険を覚悟のうえで進塁することが許されるが、許される進塁は1個までである。

VIII 審判上の注意

1. 外野に飛んだボールが内野内の野手に戻った時点でただちに審判員は「タイム」を宣告し「ボールデット」にする。
ただし、中継プレイ中の時や野手が捕球状態に無いときはプレイを続ける。
また、審判員の「タイム」宣告時に塁間にいた走者は占有した塁へ戻す。
2. 内野内の打球によるプレイは、プレイが連続しているか否かを見極めて「タイム」をとる。
3. 打球が7メートルのファウルラインを越えたとき、またはライン上のときは全てインプレイである。
また、ファウルラインに届かないゴロ・飛球は打ち直しになる。
 - 1) このエリア内で飛球を捕球してもアウトにならない。
 - 2) ファウルグラウンドも7メートルのラインがあるものとして扱う。
4. フルスイングしない打球はファウルボールとし、打ち直しとする。
5. フルスイングしてファウルラインを越えたゆるいゴロの打球もインプレイである。
6. インフィールドフライは適用する。
7. 一塁のダブルベースは1つのベースとして扱う。従って野手および打者走者はどちらに触塁してもかまわない。
ただし、打球の判定は、野手用ベース（インフィールド内のベース）で行う。
8. 走者がホームインするときや、本塁でプレイがあるときはティースタンドを素早く移動する。
9. ティーボールの試合は、タイム中でも「アピール」を受ける。

IX 補則

1. 安全

- (1) ベンチには救急箱を用意し、選手の安全には万全の体制を整えておくこと。
- (2) スポーツ保険には必ず加入のこと。
- (3) ベンチ内での素振りを厳禁とする。

2. 主催者は大会中の負傷に応急処置を施すが、それ以上の責任は取らない。

以上

(大会規則・補足) 大会規則補足

1 リーグ戦の取り扱いについて

全ての大会の試合で、リーグ戦方式を採用する場合、6 回（マイナー・メジャー部門）・7 回(インターミディエイト部門)が終了して同点の場合、7 回（マイナー・メジャー部門）・8 回(インターミディエイト部門)以降からタイブレーク制を採用する。

1)攻撃は無死二塁から始める。

2)打者は 6 回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が二塁走者となる。

例:5 番打者がその回の先頭打者なら 4 番の打順の選手が二塁走者となる。

3)投手は 6 回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。

【リーグ戦の順位決定】

1.勝率 2.失点率 3.直接対戦の勝者 4.得点率 5.コイントス

1 勝 率・・・勝ち数÷試合数

2 失点率・・・総失点÷試合数×6 イニング

4 得点率・・・得点数÷試合数×6 イニング

5 コイントス・各チーム代表者 1 名によるコイントス

2 全てのリトルリーグ関係者は開幕式、各種大会の際、I Dカードを着用すること。

2024 年シーズンより ID カードのフォーマット変更となりました。新入団選手含め新規・更新する場合、リーグ名・チーム名記載の新フォーマットで発行のこと。

3 連合リーグによる参加可能大会においては、理事会了承後、理事長・日本協会の承認を得て可能となる。

4 ベンチ内のプレイについて

(ア) 常設の正規の球場は規則通りとする。

(イ) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。

5 指導者および選手共に携帯電話および通信機器(PC、モバイル PC、Pad 等)の持ち込み、コーチスボックスの選手のコールドスプレー持参を禁止する。

6 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。

7 禁煙に協力願います。(電子タバコも含みます)受動喫煙防止の為、グラウンド内はもとより、バックネット裏本部席、ベンチ裏、応援席、は全て禁煙とし、その旨分かりやすい場所に大きく表示願います。各リーグの練習場所、球場への移動等選手と行動を共にする全ての場所を対象と上記の場所から離れ、選手たちから最も離れた場所に喫煙場所を設けてください。

8 リトル、マイナー部門ではグラウンド内でのネクストバッタースサークルは作らない。安全な場所に素振りゾーンを設営する。(グラウンドにより設営できない場合もある。)

9 球場内での必要以上に騒ぐことは禁止 (ルールブック付録 B の遵守)

1 0 コーチスボックスはファールラインから 3m以上離すことが望ましい。

1 1 ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為、投手の球数等スコア情報入手行為を禁止する。監督が競技部に確認に来ることは認める。コーチ・選手は認めない。

1 2 指導者がコーチスボックスに入る場合は往復駆け足が望ましい。

1 3 監督、コーチがベンチからグラウンド、コーチスボックスに入るときは、グラウンドコートを脱ぐこと。

1 4 捕手から投手・野手へのブロックサインの禁止 (座っていても立っていても)

1 5 監督、コーチは、投手のウォームアップの相手を行ってはならない。

1 6 試合中の撮影禁止エリア *次頁撮影エリア参照

- ① 内野側：2 塁ベースから 1 塁ベース及び 3 塁ベースの延長線上のホームベース側の範囲は、撮影出来ない。
- ② 外野側：1 塁ベースから 2 塁ベースの延長線上及び 3 塁ベースから 2 塁ベースの延長線上の間の範囲は、撮影出来ない。

1 7 試合中の禁止事項：試合進行の協力をして頂いている方の、試合中の応援行為は出来ない。

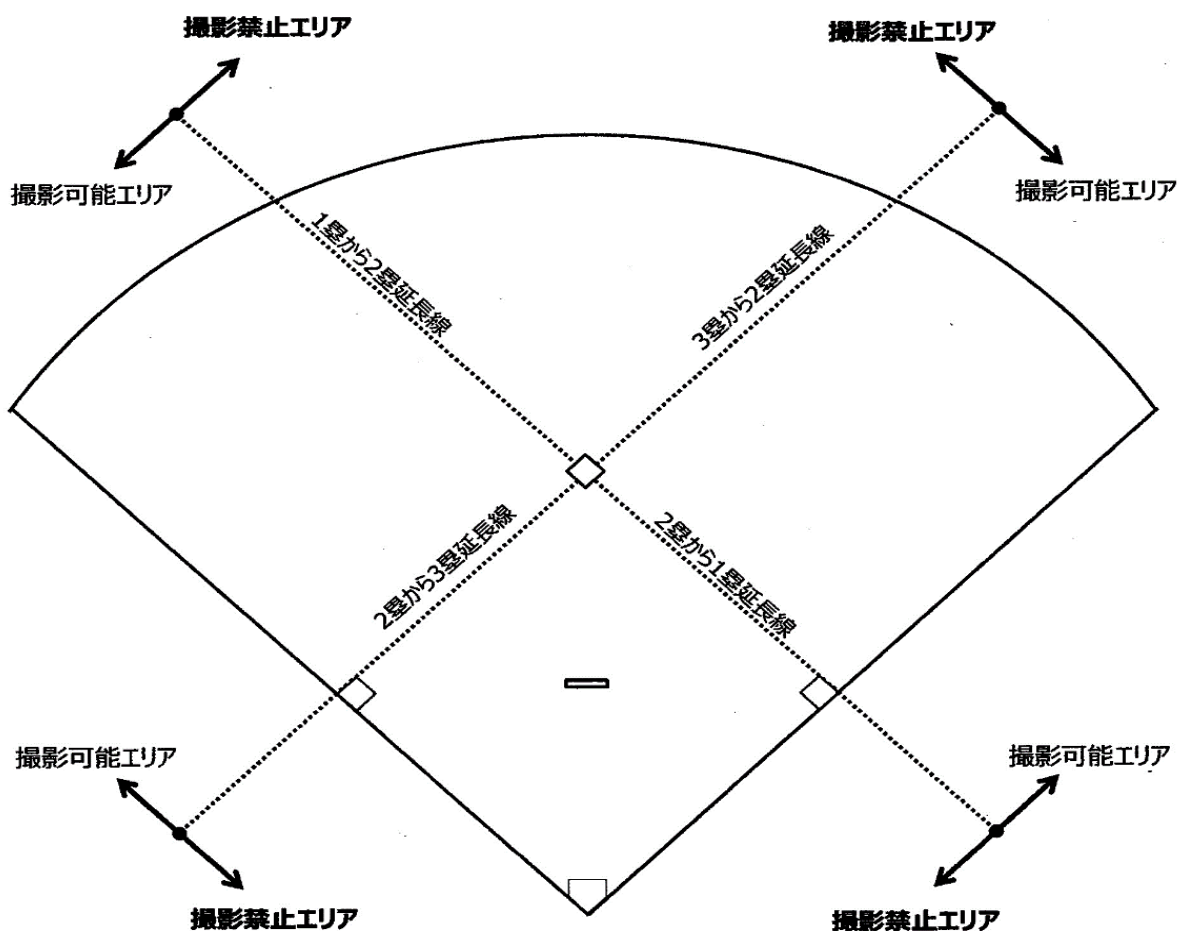
（アナウンス担当、ベンチ付き添い担当、スコア板のスコア更新担当 等）

1 8 試合後の禁止事項：試合中のビデオ撮影動画をみて試合中及び試合後に、審判の判定及びプレイの内容に関して意見を言う事は出来ない。

1 9 グラウンド提供について：メジャーの場合は規格を満たしたグラウンドとする。

- ① 主管リーグ事務局長は、年初に大会初日のグラウンドを主導にて決定する。自リーググラウンドが足りない場合は、主管リーグ事務局長が他リーグに協力依頼し決定する。
- ② 2 日目は、初日提供リーググラウンドを優先して使用する。希望が重複した場合は抽選とする。
- ③ 3 日目以降は上記②と同様とする。
- ④ 上記①から③に該当がない場合は、提供希望リーグのグラウンドとする。希望が重複した場合は抽選とする。グラウンド提供がない場合は、主管リーグ事務局長が責任をもって提供する事。 以上

撮影エリア



撮影禁止エリアでの負傷に応急処置を施すが、それ以上の責任は取らない。 以上

2026年 リトル選手登録年齢早見表

NPO 法人リトルリーグ北関東連盟 競技部 2026年1月作成

リトルリーグにおける選手の年齢は、国際登録の関係から下記のように区分されます。
各種登録書類に年齢を記入する際は、この早見表を確認の上、ご記入下さいますようお願い致します。
なお、連盟およびブロックが主催する大会は、理事会の承認を得て登録選手の年齢枠を変更する場合がありますのでその指示に従ってください。

2026年リトルリーグ年齢表

H25	⇒誕生年(和暦)
2013年	⇒誕生年(西暦)
13	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学2年	H30 2018年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 7	H30 2018年 7	H30 2018年 7	H30 2018年 7	H31 2019年 7	H31 2019年 7	H31 2019年 7
小学3年	H29 2017年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 8	H29 2017年 8	H29 2017年 8	H29 2017年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 8	H30 2018年 8
小学4年	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 9	H28 2016年 9	H28 2016年 9	H28 2016年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 9	H29 2017年 9
小学5年	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H27 2015年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10	H28 2016年 10
小学6年	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H26 2014年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11	H27 2015年 11
中学1年	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H25 2013年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12	H26 2014年 12
中学2年	H24 2012年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 13	H24 2012年 13	H24 2012年 13	H24 2012年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13	H25 2013年 13
中学3年	H23 2011年 15	H23 2011年 15	H23 2011年 15	H23 2011年 15	H23 2011年 15	H23 2011年 14	H23 2011年 14	H23 2011年 14	H23 2011年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 14	H24 2012年 14

以上

変 更 届

NPO 法人リトルリーグ北関東連盟
リトルリーグ埼玉エリア 競 技 部 殿

年 月 日 の試合において

監督、コーチ、引率責任者の変更を下記のとおりお届けします。

	監 督	コ ー チ	引率責任者
登 録 者 名			
変 更 者 名			

年 月 日

リーグ名

会 長 名

※会長名は会長・副会長・事務局長名印（三役）

印

添付資料 3

2026年シーズン 登録書の作成要領

リトルリーグ北関東連盟 競技部長
前原 正孝

1. 作成方法

大会規則を熟読して作成してください。

2026年シーズン大会の中学1年生の登録は2026年1月31日までの入団生に限る。

1) 冬季（2026年1月から3月エントリー大会）大会用選手登録書の年齢、学校、学年は新年度で作成してください。

（中学1年生は予定学校名を記入する）

2) 捺印はリーグ印（角印）、と会長個人印の両方を押してください。

3) 登録人数、9名から20名とする。 ※詳細は2026年シーズンNPO法人リトルリーグ北関東連盟大会規則による。

全日本選手権(リトル・IM)はバンダリー内選手、9名から14名で登録。

2026年全日本選手権（リトル・IM）は2026年1月31日までの登録選手に限る。

4) 登録書に主将 各種登録書に主将（キャプテン）の番号に○を付ける。

5) ①表紙 ②投球数記録&捕手確認シート ③登録書の順で左上 1ヶ所をホッチキス止めし、

クリアホルダー（A4無色）に入れる。

2. 提出部数： 各大会とも1.5) 項①～③（クリアホルダー付）1セット、

③選手登録書のコピー3部（競技部長控え、広報部長控え、グラウンド控え）

※本紙は各リーグ競技部長が照査、捺印の上、後日返却する。

3. 提出先（担当競技部）

上尾市、大宮、深谷市 : 小野寺リーグ副競技部長へ

埼玉西部、志木、富士見 : 松原リーグ競技部長へ

浦和、川口、越谷・草加 : 大高リーグ副競技部長へ

宇都宮リーグ : 岡田リーグ競技部長へ

4. 各大会エントリー締切日、抽選会日、大会初日、主管リーグ

	大会名	エントリー締切	抽選会	大会初日
1)	冬季大会インターミディエイト部門 『サイキョウ・ファーム旗争奪』リトルリーグ北関東連盟大会	1月17日	1月25日	2月11日
2)	冬季大会ティーボール部門 リトルリーグ北関東連盟大会	1月31日	2月14日	2月22日
3)	冬季大会メジャー部門 『理事長杯』リトルリーグ北関東連盟大会	1月31日	2月14日	2月23日
4)	冬季大会マイナー部門 リトルリーグ北関東連盟大会	2月14日	2月28日	3月8日
5)	春季大会ティーボール部門 リトルリーグ北関東連盟大会	3月21日	3月28日	4月5日
6)	春季大会インターミディエイト部門 JA 共済杯 第14回インターミディエイト 全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会	3月21日	4月4日	4月12日
7)	春季大会マイナー部門 MLB CUP2026 リトルリーグ北関東連盟大会	4月4日	4月18日	4月29日
8)	春季大会ジュニア部門 アジア太平洋中東選手権大会 日本地区予選 リトルリーグ北関東連盟大会	4月18日	4月25日	5月4日
9)	夏季大会ティーボール部門 第4 2 回『武蔵コーポレーション杯』リトルリーグ北関東連盟大会	4月18日	4月25日	5月10日
10)	夏季大会メジャー部門 文部科学大臣杯 JA共済トーナメント 第60回全日本リトルリーグ野球選手権 リトルリーグ北関東連盟大会	5月16日	5月30日	6月7日
11)	夏季大会インターミディエイト部門 JA 共済杯 2026全国選抜リトルリーグ野球大会 兼『産経新聞旗争奪』東日本選手権 リトルリーグ北関東連盟大会	6月13日	6月27日	7月5日
12)	秋季大会インターミディエイト部門 『サイキョウ・ファーム旗争奪』リトルリーグ北関東連盟大会	8月15日	8月29日	9月6日
13)	秋季大会マイナー部門 『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会	8月15日	8月29日	9月20日
14)	秋季大会ティーボール部門 『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会	8月29日	9月12日	9月22日
15)	秋季大会メジャー部門 『ゼット杯』リトルリーグ北関東連盟大会	8月29日	9月12日	9月23日

※2)、5)、9)、14)のティーボール大会は登録書不要です。

5. 提出期限：抽選会の1週間前厳守。

6. 追加登録

各大会とも原則抽選会当日までとする。

7. その他

不明なところはリーグ競技部長またはチーム競技部長にご確認ください。

携行書類ガイド

リトルリーグの国際トーナメント（メジャー・インターミディエイト全日本選手権・ジュニア部門日本代表選考会＝3大会）に出場するためには、連盟大会の前にリーグの「携行書類」が必要になります。携行書類は「世界へのパスポート」と考え準備して下さい。

書類はリーグ⇒連盟で国際トーナメント予選（連盟大会）開始前にチェックをします。

〈2026年2月チェック予定〉

◆携行書類提出の目的◆

- ・ 選手の生年月日、年齢の確認
- ・ 選手と保護者の関係を確認
- ・ 選手と保護者の居住地を確認（リーグバンダリー内に居住しているか）
- ・ 選手と保護者が居住地に継続的に生活しているかを確認

◆携行書類の種類◆

- ・ 書類は発行日が**2025年2月1日から2026年1月31日**まで、もしくは、その期間に有効なものです。
- ・ 各書類には、日付・住所・保護者名が明確に記載されている必要があります。
- ・ グループ②の住民票は、後続の住所証明で保護者と同居し、その保護者とともにバンダリー内に居住していることを照明する必要がある為、保護者と対象選手の記載のある住民票が必要です。
- ・ 住民票は、対象の選手と保護者で良いですが、他の証明書類と保護者名は一致させて下さい。

	グループ① [コピー]	グループ② [原本]	グループ③ [コピー]
1	運転免許証	住民票	公共料金等の領収書
2	自動車関連書類 (車検証・自動車保険証書)	戸籍抄本	金融関係記録 (クレジットカード利用明細書等)
3	健康保険証		医療費額通知書等
4	マイナンバーカード(番号は黒塗り)		ワクチン接種証明
5			インターネット・ケーブルTV・ 衛星放送関連書類等

※グループ①②③からそれぞれ1つ以上の書類が必要になります。

※不要な情報(金額等)は黒塗りしても構いません。

※グループ③公共料金領収書は、電気・ガス・水道・携帯電話・ゴミ収集・暖房など

※グループ③公共料金領収書の住所・保護者名は、グループ②の住所・保護者名が記載されたものに限りです。

※上記書類は、すべて**保護者名・住所・日付**が記載されたものがが必要です。

◆携行書類 提出方法(チーム事務局長)◆

- ・ クリアファイルを使用し、1人の選手についてグループ①②③が見開きで閲覧できるようにまとめて下さい。